逃走中～ライモンシティで逃げ回れ!!

Ｍｓ．ＮＲＫ(ミス・エヌアールケイ)

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

逃走中～ライモンシティで逃げ回れ！！

【Ｎコード】

Ｎ１２５４Ｘ

【作者名】

Ｍｓ．ＮＲＫ（ミス・エヌアールケイ）

【あらすじ】

Ｍｓ．ＮＲＫは逃走中を開催しようとザンコ達に逃走者達のまとめ役をするようにと命じた。逃走エリアはイッシュ地方のライモンシティ。果たして、逃げ切る者は現れるのか？※キャラ崩壊の可能性はある。苦手な者は引き返すがいい……。

プロローグ

ある日、謎の女性が逃走中を開催しようと何かを計画していた。

謎の女性「ねえ、ザンコ。」

謎の女性がザンコと名乗るとある誰かの
魔法で人間の姿になったサザンドラに
話しかけた。

ザンコ「何でしょうか？のｒ……いや
Ｍｓ．ＮＲＫ（ミス・エヌアールケイ）。」

謎の女性のコードネームである
Ｍｓ．ＮＲＫはこう言った。

Ｍｓ．ＮＲＫ「私は考えた結果、逃走中を始めることにした。君は
フゴンとクガンとオノンとガリアと一緒に逃走者の
まとめ役をやって欲しい。」

Ｍｓ．ＮＲＫはザンコと同じく人間の姿になったフライゴンのフゴン、
クリムガンのクガン、
オノノクスのオノン、
ガブリアスのガリアに逃走者をまとめて
欲しいと命じた。

ザンコ「はい、かしこまりました。」

Ｍｓ．ＮＲＫ「じゃあ、君達を今から
ライモンシティに転送する。」

Ｍｓ．ＮＲＫはザンコ達を
ライモンシティに転送したのだった。

ザンコ達がライモンシティにいるのを
見た彼女は、

Ｍｓ．ＮＲＫ
「では、これから逃走中を始める！」

逃走中開始の宣言をしたのだった……。

逃走者紹介

☆ポケットモンスターブラック・ホワイト

・マリルン
一人称…あたし
とある作者の小説に登場する少女。
料理が得意で、ポケモン達にとても
優しい。足は速く、ミッションは積極的。運はとてもある。

・トウコ
一人称…私（稀にあたし）
マリルンと旅をしている少女。
「私って、ベリーハッピー♪」が口癖。
足はマリルンよりやや遅いが、
ミッションは積極的。運はややある。

・ミズキ
一人称…私
マリルンとトウコのライバル。
嫌みな性格で自分の顔を悪く言う人が
大嫌い。足は遅めでミッションは
人任せが多い。運は普通。

・リュウグ
一人称…俺
マリルンと共に旅する予定の少年。
足は速めで、ミッションは積極的。
運は結構ある。

・チェレン
一人称…僕
リュウグに対抗心を燃やしているが、
友好的な性格。足は普通で、ミッションは消極的。運は普通。

☆ファイアーエムブレム

・エルク
一人称…僕
礼儀正しい魔道士の少年。
頑張り屋な性格だが、女の子と会話する
ことが苦手である。足はやや速く、
ミッションはやや積極的。運はある方。

・セーラ
一人称…私
生意気なシスター。
周りの人を振り回すトラブルメーカーで、ほとんどの人に嫌われている。足は遅く、ミッションは人任せ。
運は……とある誰かが奪ったので、
全くない。

セーラ「どういうこと!?」←うるせぇ!

・ルーテ
一人称…私
FE聖魔の光石に登場する魔道士少女。
「私、優秀ですから。」が口癖で、
自分より優秀そうな人の存在を認めない。足はやや遅い。ミッショ

ンは気まぐれ。
運は……奪われているので全くない。
ルーテ「運がなくても優秀であれば、私はいいのです。」←何とでも言え！

☆ポケットモンスターベストウイッシュ

・サトシ
一人称…俺
ご存じポケモンアニメの主人公。
足は速めでミッションは積極的。
運はある方。

・アイリス
一人称…私
竜の里出身で現在、サトシと旅をしている少女。「子供ね～。」が口癖。足は速めでミッションは気まぐれ。運は結構ある。

・デント
一人称…僕
サトシのバトルスタイルに惹かれて、
彼と共に旅をしているソムリエ少年。
料理が得意で、ポケモンソムリエの
ランクはAクラス。足は普通で
ミッションは消極的。運はあまりない。

・シューティー
一人称…僕
イッシュ地方でサトシの一番目の

ライバルとなった基本バカ少年。
サトシを見下している。
足はあまり速くないが、ミッションは
『基本』と言いそうなくらい積極的。
運は普通。

シューティー「『基本バカ』は余計だ！」
→うるさいわヴォケ！

・ベル
一人称…私
イッシュ地方でサトシの二人目の
ライバル。登場の度に必ずサトシを噴水や川の中などに突き落とす。
足は遅めで、
ミッションは気まぐれ。運は普通。

・カベルネ
一人称…私
ポケモンソムリエールでデントの
ライバル。ランクはCクラス。毒舌家で
ルールを破り、こっそりサトシのポケモン達を「相性は最悪。」と
診断した。また、デントのテイストを否定している。
足はあまり速くなく、ミッションは
人任せ。運はあまりない。

・ケニヤン
一人称…俺
シママ（今はゼブライカだが）でサトシの
ミジュマルとバトルをした少年。他人からよくアクセントを間違え
られ、それを気にしている。また、名前を間違えられた

こともある。足は速く、ミッションは
積極的。運はある方。

・ラングレー
一人称…あたし
自称「ドラゴンバスター」で、竜の里
出身のアイリスを特に敵視している。
足は普通より速く、ミッションは人任せ。運はないかな？

ラングレー
「曖昧なことを言ってんじゃないわよ！」
→黙れ！

☆スマブラのポケモンキャラより

・ピカチュウ
一人称…ボク
世界一有名で人気のポケモン。
足は速く、ミッションはやや積極的。
運はとてもある。

・プリン
一人称…ワタシ
ピカチュウに次ぐ人気を誇ったポケモン。足は誰よりも遅い。隠れることに専念し、ミッションは消極的。
運はピカチュウ程ではないが結構ある。

・ピチュー
一人称…ボク
ピカチュウの進化前。

足は速い。彼もプリンと同じく隠れる
ことに専念し、ミッションは消極的。
運はまあまあある。

・ミュウツー
一人称…ワタシ
初代伝説ポケモン。
足はあまり速くない。ミッションは
人任せが多い。運はあまりない。

・レッド
一人称…俺
フシギソウとリザードンとゼニガメを
使うポケモントレーナー。彼と
ポケモン達は単独で行動することになる。足と運は普通で、ミッション
ョンは気まぐれ。

・フシギソウ
一人称…オイラ
レッドの手持ちポケモンの一匹。
足はあまり速くない。ミッションは
ゼニガメ程ではないが、消極的。
運は普通。

・リザードン
一人称…オレ
レッドの手持ちポケモンの一匹。
飛ぶことは禁じられている。
足はまあまあ速く、ミッションは
気まぐれ。運は普通より上。

・ゼニガメ
一人称…ボク
レッドの手持ちポケモンの一匹。
足は遅い。かなりの臆病で、ミッションは消極的。運はあまりない。

・ルカリオ
一人称…ワタシ
波動の勇者。ゲーム中は波動を使えない。足はやや速く、ミッションはやや積極的。運はある方。

以上、２５人の逃走者が逃げ回る。

逃走者以外の登場人物紹介

・Ｍｓ．ＮＲＫ（ミス・エヌアールケイ）
正体不明の謎の女性。逃走中のゲームを
自在に操り、逃走者や読者達を盛り上げ
ようとしている。彼女らしき人物の
名前を言われると、否定する。

・デリーナ（シャンデラ）
Ｍｓ．ＮＲＫの手持ちポケモン。

・ザンコ　フゴン　クガン　ガリア　オノン
とある作者の魔法によって人間の姿に
なったポケモン達でＭｓ．ＮＲＫの部下。左からサザンドラ、フラ
イゴン、
クリムガン、ガブリアス、オノノクスで
ある。Ｍｓ．ＮＲＫに司会者役を
命じられた。

・イッシュ地方のジムリーダー達
登場するのは、ポッドとコーンと
アロエとアーティとカミツレである。
どんな立場に当たるのかは登場してからのお楽しみである。

・ムサシ　コジロウ　ニャース
ロケット団でサトシのピカチュウをいつも捕まえようとしているが、
最近は
サトシ達にあまり絡まなくなった。
どんな形で登場するかはお楽しみである。

・ガント　ジロー　ズーニャ
マリルン達の敵。
ロケット団と同じく、どんな形で登場
するかはお楽しみある。

・ハンター
黒のサングラスと黒のスーツを身に着けた集団。逃走者を見つける
と確保か視界から逸れるまで追跡する。

話の設定&ルール説明

サトシ一行はライモンシティのカミツレに勝利し、サブウェイマスターのノボリ、
クダリ相手にサトシはデントとタッグを組み、バトルをした後の話である。

一方、マリルン一行はライモンシティに到着し、ついさっきリュウグと出会って一緒に行動するようになった後の話である。

ルーテはある人物によって無理やりライモンシティに引きずり込まれ、逃走中に参加することになったという設定である。

逃走エリアはライモンシティ。

ハンターは3体でスタート。

１秒２００円ずつ賞金が増えていき、１２０分間、逃げ切れたら１４４万円を獲得。しかし、ハンターに確保されると賞金は０円。

自首はリトルコートと観覧車に今だけ設置された自首電話ボックスを使って申告
すれば成立した時の賞金を獲得できる。

確保された人は牢獄、自首した人は牢獄の外で待機をする。

逃走者が全員、途中で確保・自首した
時点でＧＡＭＥＯＶＥＲとなる。

以上で説明を終了する。

逃走者大集合！！（ブラック・ホワイト編）

マリルン一行は、ついさっきリュウグに出会い、行動を共にする事になった。

逃走中が始まると知り、マリルン達はポケモンセンターの前に行った。

マリルン
「とうとう、この時が来たのね。」

トウコ「うん！私、こういうゲームに参加したかったのよ。」

エルク「マリルンさん、トウコ、僕達絶対に逃げ切ろうね。」
→何故かマリルンのそばにいる彼。
ネタバレの為、此処では黙っておく。

リュウグ
「いや、一番逃げ切るのは俺だ。」

???「いや、僕だよ。」

と誰かが割り込んで言った。

マリルン「あなたは誰？」

マリルンは初対面なので彼に聞く。

トウコ「あなたは……チェレンね。」

トウコは面識があったようだ。

彼はリュウグが最初に出会ったライバル、チェレンだということが分かった。

マリルン「トウコ、知り合い？」

トウコ「ええ、彼とは私がトレーナーになる前から知り合いよ。」

チェレン「トウコ、君は僕のことを覚えていたんだね。よかった、何か誰かさんとは違うね。」

リュウグ「チェレンお前ぇ！！（怒）」

リュウグは今、チェレンを殴ろうとしている。

それを見たマリルンは慌てて、

マリルン「リュウグ、止めなさい！暴力振るうと、ハンターに捕まる確率が高くなるわよ！！」

何気にいいことを言って、リュウグの腕をつかみ、

リュウグ「ハンターに捕まりやすくなる？……分かった、止める。」
リュウグは殴ろうとした手を引っ込めた。
マリルン「それでよし！」
マリルンはニコニコして言った。
チェレン「助けてくれてありがとうございます。ところで、あなたと紫髪の彼は誰ですか？」
マリルン
「あたしはマリルンよ。で、こっちはエルク君。チェレちゃん、よろしくね！」
エルク「チェレン、よろしくね。」
チェレン「エルクさん、よろしくお願いします。……マリルンさん、僕のことをチェレちゃんって……。」
マリルン「ええ、あたしだけの呼び名よ。あなた、女の子に見えるもの。だからチェレちゃんって呼びたいのよ。」
トウコ&リュウグ
「マリルン、何を言って……。」
チェレン「まあ、あなたがそう呼びたい

なら構いませんが……。」

トウコ「チェレン……。」

リュウグ「いいのかよ？」

チェレン

「僕がいいって言ってるんだ……。」

チェレンはこの後、何も言えなくなった。

しばらくして、

？？？「何か、未熟者がいると思ったら、やっぱりあんたね。ト・ウ・コ。」

トウコ「あんたは！？」

リュウグ

「お前は確か……、ミズキだな。」

リュウグの言う通り、マリルン達の前に現れたのは、トウコに毎回、嫌みを言うミズキだった。

ミズキ

「あ～らリュウグ、久しぶり！私のことを覚えていたなんて正直者ね。……それはそうとね、トウコ。私はあんたより長く逃げてやるから、よ～く覚悟しな！」

トウコ「フゥン！何とでも言いなさいよ。
私だって今度こそ、あんたより長く
逃げるんだから、開始早々ハンターには
確保される訳には行かないわよ！！」

２人の喧嘩を見ていたチェレンは、

チェレン「相変わらず仲が悪いね。」

ときょとんとしていた。

ミズキ
「じゃあねえ、あんたが私よりも早く確保されたら、旅を止めて家に帰りな！！」

マリルン「何て身勝手なことを……。」

マリルンは呆れた顔で言った。

トウコ「冗談じゃないわよ！何で私が
逃走中であんたに負けたら帰らなきゃ
いけないの？絶対却下よ！！（怒）」

ミズキ「私に逆らうのか？やっぱり
あんたをポケモンバトルでコテンパンに
してやらないと分かんないようだねえ。」

トウコ「あんたこそ、マリルンにまた
負けるのが怖いのかな？」

ミズキ「あんたに言われたくない！！（怒）」

トウコ「何よぉ！（怒）」

2人は火花を散らし合った。

エルク「喧嘩、止まりそうもないね。」

マリルン
「全く、開いた口がふさがらないわ。」

トウコとミズキの喧嘩が永遠に終わりそうもないと気付いたリュウグは、

リュウグ「お前達、喧嘩は止めろ！
逃走中はめったに参加できないんだぞ！！
喧嘩をしてる暇があったら、逃げ切るための戦法でも考えておけ！！（怒）」

トウコ「リュウグは引っ込んでて！」

ミズキ「喧嘩の邪魔をするな！」

また、トウコとミズキの喧嘩が再開した。

すると、

？？？「2人とも、喧嘩をしてるなんてホントに醜い人達ね。」

トウコ「あんたは！？」

ミズキ「誰だ！お前は？」

エルク「セーラ。」

セーラ「あっ！エルクじゃない。」

エルク「お前には会いたくなかった。」

セーラ「何よ！失礼なことを言って！！」

マリルン「はいっ、そこまで！！」

マリルンはエルクとセーラを引き離した。

セーラ「何で邪魔をするの？」

マリルン「あたしはデントさん達に、
エルク君の護衛を頼まれたのよ。」
→あーあ、マリルン言っちゃった。

セーラ「何ですって！？普通はエルクが私を護衛するんでしょ！」

マリルン「でも此処の世界は別よ。
エルク君はイッシュ地方が分からない。
そんな子を振り回すあんたと一緒に
行かせたら大変なことになるわ。」

セーラ「じゃあ、こうしましょう。
あなたが私より早く確保されたら、
エルクを返しなさい！！」

マリルン「ふーん、度胸があるわね。
その条件、受けて立とう。でも、あたしがあんたに勝ったら、エルク君はあたしとの旅を続行するって言うことでいいわね？」

セーラ「……分かったわ。でも、私は
絶対に負けないわよ！」

マリルンとセーラの争いは終わった。

ミズキは怒った顔でセーラを見て、

ミズキ「おい！セーラとか言ったけな。
あんた、よくも私のことを『醜い』と
言ったな。」

トウコ「そうよそうよ、性格が醜い
生意気小娘（セーラ）が言わないでよね！」

セーラ「私は醜くない！あんた達とは
一緒にしないでよね！！（怒）」

トウコ＆ミズキ「……。（怒）」

と3人で切りがないくらいに喧嘩を
していた……。

突然、

？？？「みんな、集合したな。」

マリルン「え？」

トウコ「誰？」

エルク「……？」

マリルン達が目撃したのは、人間になったサザンドラのザンコだった……。

リュウグ「何だ？」

チェレン
「人間にしては不思議な人だなぁ。」

ミズキ「もしかして、化け物？」

セーラ「そうかもしれないわ。」

ザンコ「お前達（ミズキとセーラ）、
何失礼なことを言う！？私はザンコだ！！
逃走中の司会をつとめる。もっと礼儀を
学べ！！（怒）」

ザンコはミズキとセーラに化け物
呼ばわりされて怒った。

マリルン「あたし達を逃走中に招待
したのはあなたなの？」

ザンコ「そうだ。続いて私達の自己紹介をする。」

？？？「私はクガン。」

？？？「私はフゴン。」

？？？「私はガリア。」

？？？「俺はオノン。」

ザンコ「彼女らも私と司会をつとめる。
とりあえず、ポケモンセンターで待って
いるのだ。まだ参加者はいるのでな。」

マリルン「あたし達の他にも参加者が？」

ザンコ「そうだ。とりあえず中に入れ。」

マリルン達「分かった。」

ザンコの命令で、マリルン達は
ポケモンセンターで残りの参加者を待つ
ことにした。

逃走者大集合！！（ベストウイッシュ編）

サトシ一行はライモンシティで逃走中を行うことを知り、オープニングゲームをする場所、ポケモンセンターの前に行った。

サトシ「よーし、やってやるぜ！！」

アイリス「サトシってば、子供ね～。」

デント「まあ僕達、逃走中に参加することになったからね。」

サトシ「バトルもそうだけど、逃げ回って賞金ゲットを目指すのも燃えるぜ！！」

デント「サトシらしいね。」

アイリス「そうね。私だってハンターから逃げ切ってやるんだから！」

サトシ達の前に誰かが現れた。

サトシ

「おっ、あれはシューティーじゃないか。おーい！シューティー。」

シューティー「フッ！また君か。」

シューティーはサトシを見ると
知らん顔をし、サトシとの距離をとって
ポケモンセンターの前に来た。

しばらくして、

???「アァァァァァ！あなたは間違った
テイストをする私の恨み相手のデント！！」

デント「相変わらずだね、カベルネは。」

カベルネと言う女に悪口を言われても
全然、怒らないデント。

カベルネ「今回こそはあなたより長く逃げ切って、私のテイストが
正しかったことを証明してみせるわ。」

デント
「でも、僕も君には負けないからね。」

デントはやんわりと言い返した。

またしばらくして、

???「ドラゴンの臭いがすると
思ったら、やっぱりあんただったのね、
アイリスの子供。」

ピンクのボブ髪に黄色い帽子をかぶり、
半袖に短パンの女がアイリスに言った。

アイリス
「それを言うなら『子供のアイリス』って言ってるでしょ！（怒）」
その女に『アイリスの子供』と言われて、怒るアイリス。
サトシ「おっ、ラングレーも逃走中に参加するのか？」
サトシは今、目の前にいた女を
ラングレーと呼んだ。
彼女は以前、竜の里の誰かにフルボッコにやられたことから、ドラゴンポケモンを
目の敵にし、自称『ドラゴンバスター』と名乗るようになったのだ。
それで、竜の里出身のアイリスを特に
敵視していたのだった。
ラングレー「出るに決まってるじゃない。それより、アイリスの子供。あんたは
逃走中に出るのよねえ？あんたがせいぜい早く捕まるのを祈っているわ。」
相変わらず『アイリスの子供』と呼ぶ女。
いい加減に正しく言えるようになって
欲しいものだ。
アイリス「だから『子供のアイリス』。
私だって、あんたが早く捕まることを

祈っているわ。ホントに子供ね～。」

ラングレー「ええ、子供よ！」

２人はお互い、しばらくいがみ合っていた。

またしばらくして、

？？？「おっ！サトシじゃないか。」

サトシ「この声は、ケニ［ヤ］ン！！」

ケニヤン「アクセントが違うけど……ま、いいか。」

サトシ

「ケニ［ヤ］ンも逃走中に出るのか？」

ケニヤン「だから、アクセントが違うって……ま、いいか。その通り、俺も逃走中に出るんだ。」

サトシ「俺、お前には負けない。」

ケニヤン「俺だって負けないぜ。」

サトシとケニヤンはどっちが長く残れるかお互いに闘争心を燃やしていた。

またしばらくして、向こうから誰かが

慌てて走って来るのを見た。
だんだんサトシに向かってくると、
???
「どいてどいてどいてどいて……。」
手を前に出して止めようとしたら、
走るスピードを止めることができず、
ドツーン！
サトシ「ウォォォォオ！！」
バチャーン！
サトシは突き飛ばされて噴水の中に
落ちた。
ケニヤン「サトシ、大丈夫か？」
アイリス「ベルの登場は相変わらずね。」
アイリスの言う通り今、やって来たのは
ベルだった。
何故か彼女が登場するときは、必ず
サトシを突き飛ばして、噴水や川などに
落とすのである。

いい加減に直って欲しい悪い癖である。

ベル「あっ！サトシ君。」

サトシは噴水からビショビショになった
体を起こし、

サトシ「ベル～、いい加減に気をつけて
くれよな。」

と呆れて注意をした。

ベル「御免ね御免ね、ホントに御免ね！！」

ベルは頭をペコペコして何回も謝った。

アイリス「サトシ、ビショビショ。」

デント
「このままでいると、風邪引くよ。」

ケニヤン「でも、着替えがないぞ。
どうするんだ？」

サトシ「そんなら裸で逃げてやる。」

アイリス「そんな格好だと恥ずかしい
でしょ～。ホント、子供なんだから！」

アイリスが言った後だった、

???
「全く仕方のないヤングボーイだな。」
と、誰かの声。
サトシ「誰だ？」
アイリス「あれって、人間？」
デント「ん～、デフィカルトなテイストだなぁ。」
ベル「……？」
ケニヤン「ホントに人間なのか？」
カベルネ「最悪のテイストの予感だわ。」
ラングレー
「何か、ドラゴンの臭いがする。」
???「そこの女2人、私に向かって
何だ！その口は。お前達も礼儀を学べ！！
私はザンコ、人間だ！！」
???「私はクガン。」
???「私はフゴン。」

？？？「私はガリア。」

？？？「俺はオノンだ。」

ザンコ
「サトシ、そのままでは風邪を引く。
この服に着替えてゲームをするがいい。」

ザンコは青の半袖にジーパンを持って
言った。

サトシ「ありがとうございます。」

サトシは服を受け取り、

ザンコ「さ、ポケモンセンターに入れ。」

シューティー&カベルネ&ラングレー
「……。」

→以外全員「はい！」

サトシ達はポケモンセンターの中に
入った。

すると、

マリルン「あっ、あなた達は？」

サトシ「俺はサトシ。こっちは相棒の

ピカチュウ。」

ピカチュウ「ピカ、ピカチュウ！」

アイリス「私、アイリス。」

デント「僕はデント。」

サトシ
「そして、左から順に俺のライバルの
シューティーとベルとケニ［ヤ］ン、
デントのライバルのカベルネ、
アイリスのライバルのラングレーだ。」

ケニヤン「サトシ、アクセント違ーう！
けど、まっいいか。」

サトシは代表でライバル達の名前を紹介
した。

マリルン「あたしはマリルン、１６歳よ。こっちはエルク君。１５
歳。」

エルク「みんな、よろしく。」

マリルンは自分を名乗った後、傍にいる
エルクのことも彼女が名前を紹介した。

エルクは微笑んで一言、言った。

トウコ「私はトウコ。アニメに出ている
あなた達と逃走中に参加できて……
私って、ベリーハッピー♪」

リュウグ「俺はリュウグ、お互いに悔いのないゲームにしような。」

チェレン「僕はチェレン。リュウグの
ライバルなんだ。」

ミズキ「私は、ミ・ズ・キよ。あんた達、よ～く覚えておきな！」

マリルン「最後に、やかましい小娘は
『セーラ』って、いうのよ。」

セーラ「『やかましい小娘』は余計よ。
エルクは絶対に取り返すんだから！」

マリルン
「口先だけなら何とでも言えるのね。
でも、あんたのような生意気にエルク君は渡さないんだから。あたしはね、他人や
ポケモンを召使いに扱う奴は一番、
大っ嫌いなんだよ。」

マリルンはノリアから、彼女の性格や
彼女がエルクを無理やり振り回した事が
あることを聞いていたのだった。

エルク「……マリルンさん……。」

セーラ「いい加減にしなさい！！もう！
ホントにイライラするわね。（怒）」

ミズキ「おい、セーラ！私を忘れるなよ。
あんたより長く逃げ切ってやるんだから、よ～く覚悟しな！！」

セーラ
「あんたは引っ込んでなさい！！（怒）」

ミズキ「誰が引っ込むか！（怒）」

ミズキとセーラの争いはきりがないので、以下省略。

サトシ「みんな、よろしくな。……で、
何であいつらは喧嘩をしているんだ？」

トウコ「サトシ達、後免ね。
いつものことだから気にしないで。」

アイリス「さっきからあの子達は何、
争っているの？子供ねー。」

アイリスはミズキとセーラの喧嘩に
呆れて言った。

その彼女の一言が喧嘩している奴らの
耳に入り、

ミズキ＆セーラ
「子供で悪かったわね！（怒）」

アイリスの方を向き、怒って言い返した。

マリルン「それより、サトシ。手に持っている服は何なの？」

マリルンはサトシの手に持っている服を
見て聞いた。

サトシ
「俺、さっき噴水に落ちてしまって……、ザンコさんに渡されました。」

彼はマリルンより年下だと分かったので、敬語で答えた。

マリルン「着替えて来なよ……、風邪を
引くわよ。」

サトシ「はい、そうします。」

サトシは素直に言った。

ザンコ「更衣室は私が案内する。
付いてくるのだ。」

サトシ「お願いします。」

ザンコはサトシを案内しようとしたとき、

ザンコ「で、マリルン。」

マリルン「何？」

ザンコの呼ぶ声に耳を傾けるマリルン。

ザンコ「まだ逃走者はこれで全員ではない。君は、そのことを他のみんなに知らせてくれ。」

マリルン「分かったわ。」

マリルンの承諾を聞くと、ザンコは改めてサトシを更衣室に案内した。

マリルンはみんなに向かって、

マリルン「まだ逃走者はこれで全員じゃないんだって！」

マリルン&ウザいライバル以外全員
「えー！？」

ウザいライバル
「おい！『ウザいライバル』って、どういう意味だ（よ）！！（怒）」

黙れ！お前達の名前なんて一々、書いているのは面倒なんだよ！！

ウザいライバルは放置して、話を戻そう。

ウザいライバル「……。（怒）」

リュウグ「で、誰なんだ？」

マリルン
「それは、あたしにも分からないわ。」

チェレン
「ザンコさんは他にも参加する人の名前を言わなかったんですか？」

トウコ「まさか、人間じゃない参加者
だったりして。」

ミズキ「あんた、バカじゃないの？人間
以外の参加者が逃走中に参加できるわけ
ないだろ！」

トウコ「何よ！（怒）」

ミズキ
「私はホントのことを言ってんだよ！」

エルク「トウコの言うことがホント
だったら君はどうするんだい？」

ミズキ「それは有り得ない！私の言ってる
事はすべて正しい。」

アイリス「自信過剰になって、ミズキは
ホント子供ねー。」

ミズキ「うるさい、そこのガキ！（怒）」
ミズキはアイリスの顔を向き、怖い顔で
言い返した。
だが、アイリスは怖い顔にビビらず、
アイリス
「あんたに言われたくないよ！（怒）」
と言い返した。
ベル「まあまあ、落ち着いて。」
デント
「喧嘩をするのは友達の証とも言うし。」
ミズキ&セーラ&アイリス
「何が『友達の証』じゃ！（怒）」
ミズキとセーラとアイリスはデントの
一言に切れた。
ケニヤン「全く、切りのない喧嘩だな。」
ケニヤンは呆れ気味だった。
しばらくして、サトシが更衣室から
戻って来た。

サトシ「みんな、待たせたな。」

アイリス
「サトシ、似合ってるじゃない！」

デント「クールなテイストだね。」

カベルネ「何がクールなテイストなのよ。渋いじゃない！」

と、おバカな小娘が口を挟んだ。

カベルネ「『おバカな小娘』は余計よ！！」

黙れ！

サトシ「……。」

マリルン「カベルネ、そんなことないわ。彼はすごくかっこいいわ。
」

トウコ「そうね、すごくいいわ。」

カベルネ「キィィィィ！（怒）」

余りのムカつきに言葉も言えなくなった。

リュウグ「サトシ、俺とお前は気が合い
そうだな。」

サトシ「ああ、頑張ろうな。」

と、ザンコはマリルン達の前に現れ、

マリルン「他に参加する人は誰なの？」

マリルンは聞いた。

ザンコ「それは……、」

ザンコ＆ウザいライバル以外全員

「それは？」

ザンコ「それは……、」

ザンコ＆ウザいライバル以外全員

「それは？」

ザンコ「……教えない！」

ドテッ！！

ザンコとウザいライバル以外はみんな、

ずっこけた。

ウザいライバル「『ウザいライバル』って言うのも、いい加減にしろ（て）！」

黙れ！

ウザイライバル「……。（怒）」

話を戻そう。

マリルン「何で～？」

ザンコ「それは、来てからのお楽しみだ。此処で教えてしまうとつまらない。」

サトシ「そんなぁ～。」

デント「まあ、仕方ないよ。」

チェレン「後で知った方が楽しいし、
いいじゃないか。」

エルク「残りが来るまで、僕達は何か会話でもして待ってよう。」

エルク&ザンコ&ウザライ以外全員
「うん、そうだね（な）。」

ウザいライバル
「今度は省略するなー（しないでー）！」

お前ら、黙れっつってんだろ！

ウザいライバル「……。（怒）」

マリルン一行とサトシ一行が合流し、
残りの参加者が来るまで、彼女達は会話をして待つことにしたのだ

った。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1254x/

逃走中～ライモンシティで逃げ回れ!!

2011年10月30日13時04分発行